

サイン (Sign) は、ものを記号としてとらえ、意味を創造し、関係を構築する方法論である。屋外広告物はそのうちの媒体の1つである。包括的な呼び方である sign に対して媒体としての標識や表示物を package と同様に -age をつけて signage と使い分けことがある。一般には厳密に使い分けことはせず、文脈で理解する。「屋外広告物」、「サイン」、「記号」の意味を簡単に説明する。

### 1. 記号とサイン

日本では、「記号」という場合には「記号学」として幅広い意味で使うことが多く、翻訳をすれば同じ言葉であるが、日本語で「サイン」という場合は、媒体としてのサインを指すことが多く、信号、標識、ピクトグラム、合図、暗号、ジェスチャーなどの伝達のために用いる記号の表示全般を指す。署名をする場合のサインは、自分自身の証明、すなわちアイデンティティの象徴として用いる。また、野球のサインは、仲間だけに意味が伝わる暗号であり、記号の特徴を表している。

### 2. 屋外広告

サインの一部ではあるが主に広告目的の表示物のうちの屋外に掲出されているものを「屋外広告物」と区別して使い分け。建物自体に描かれた絵や、光を活用した広告物などを含む。屋外広告物と一般に言う場合は、「屋外広告物法」および「屋外広告物条例」等によって定義されたさらに狭い範囲の屋外広告物を指す。類似した用語である「看板」は、名称を表示したり方向を示す表示物の一般用語であり、屋内に表示された広告物を含む。

### 3. 記号の三角関係

人間がコミュニケーションのために用いるものは、すべて記号である。屋外広告物も最初に記号の考え方をを用いるとわかりやすい。記号は、「記号そのもの」と、「記号が示す対象」と、「記号の解釈」の、3つの関係が成り立つ場合に「記号」と言う。

「気温0度」は、気温を段階で表現する記号体系ができてはじめて記号として成り立つ。「雨」も同様。「本」はひとつの概念である。唯一の対象を示すものではなく、本という条件に適ったものの群の総称である。

### 4. 解釈の記号

授業を受けている学生が「あくび」をした。「あくび」が「夜ふかをした」か「お前の話は退屈だ」という意味が含まれているかは、受け手の解釈次第である。これを「解釈の記号」や「暗示」と言う。

一方、数字や文字などは解釈の幅が狭く、交通信号や警告を表す標識なども、誤解されては困る。絵であっても、富士山の表し方や傘が雨を示すなどの表現は、社会的な約束が成り立っている記号である。

### 5. 記号としての屋外広告物

屋外広告物も同じように3つの関係で考える。記号そのものは、「屋外広告物そのもの」である。記号が示す対象は、「屋外広告物が示す会社、商品、活動、あるいは目的など」である。「記号の解釈」は、「屋外広告物の受け手の解釈」である。このいずれかが不十分でも屋外広告物として成り立たない。

### 6. 好ましい屋外広告物

情報が相手に的確に伝わるのが第1の条件である。また、瞬時に意味を伝えるために表現は「明示的」であること。情報の整理ができていなかったり、デザイナーの表現能力が下手だったりすると、野球のサインと同様「暗号」になってしまう可能性がある。

情報の受け手には次のことを期待する。

- ①情報を的確に受け取ってもらう
- ②関心を持ってもらう
- ③好印象を持ってもらう

従来は、「視聴率」の調査でわかるように、見てもらうことが最優先の課題だった。見てもらうだけなら、できるだけ大きく、できるだけ派手であればいい。しかし、屋外広告物は、一定の大きさがあり場所に不都合がなければ概ね知覚される。目立つ以上に、的確な表現、伝えたい内容の整理、受け手の反応を考え、この3つの関係を好ましくつくりあげることが、屋外広告物が記号として成り立つ条件である。